

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691100186
法人名	社会福祉法人椎原寿恵会
事業所名	グループホーム有馬館
所在地	鹿児島県南さつま市加世田地頭所1600番地 (電話) 0993-78-4678
自己評価作成日	令和3年11月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の症状を理解した個別ケアを目指しています。そのためにも入居者様との信頼関係作りを丁寧に行い、その方の意思決定を大切にしています。季節行事や外出機会を提供し、楽しみのある暮らしの支援をおこなっております。グループホームでの生活の様子を毎月のお便りとともに写真をお送りし、ご家族様には好評いただいています。さらにレクや行事、面会後に写真をその日のうちに印刷し、入居者様同士のコミュニケーション作りに大きな効果がみられています。「自分らしく暮らすことを大切にしながら安心して過ごしていただけるように支援します」の理念のもと職員一同であたたかなケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道270号線から中に入った静かな地域に位置しており、近くには市役所・警察署・ホームセンター・大型スーパー・コンビニエンスストア等の公共機関や商業施設があり、日常の買い物も気軽にできる環境であり、利便性に優れている。母体病院の近くの建物の2階がホームになっており、法人内にグループホームが3つ、認知症デイサービスが2つ、有料老人ホームがあり、研修会や係活動・避難訓練等は合同で実施されている。

管理者は職員が働きやすい職場環境作りに努め、研修等により職員のスキルアップを図り、食事・ケア・レクレーションの係活動により、充実した日々のケアが提供できるように職員は一体となって業務に取り組んでいる。また、利用者のこれまでの生活歴を重視し、その人らしく安心して暮らせるための支援を目指して理念を掲げ、職員は認知症の症状やケアのあり方について知識を深めながら、利用者の意思決定を最優先したケアの実践に努めている。

現在はコロナ禍のために運営推進会議や地域との交流・外出等、通常実施できていたことが難しくなっているが、何とか実施できるように検討して工夫を重ね、関係機関とも十分に連携を取りながら、サービスの向上に繋がれるように努めている。利用者の自立度は比較的高く、車椅子利用者もなく、調理等を実施できる利用者も多いことから、機能維持のためにも自立支援を目指した支援を行うために検討を重ねて行く必要があると考えている。

理念：自分らしく暮らすことを大切にしながら、安心して過ごしていただけるように支援します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全員で考えた理念をスタッフルームに掲げ全員で理念の共有・実践を行っている。	利用者が自分らしく暮らせる支援を目指して理念を掲げ、事務所と玄関に掲示している。職員は毎週理念を唱和して理解・意識付けを図り、認知症の症状やケアのあり方について知識を深めながら、利用者の意思決定を最優先に考えたケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が減っていたが面会等の制限が若干緩和されたため出張美容やおはなしボランティアの受け入れも開始している。	自治会に加入し、自治会長とは日頃から連携を深めている。コロナ禍のため夏祭り・文化祭・体験学習の受入れ等の対人交流は自粛しているが、訪問美容・ボランティア・七草の晴れ着の子供との写真撮影等は行っている。市報も各利用者に配布され、地域の話題等の情報が得られるため、好評である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学や介護相談等を電話でいつでも受け入れている。在宅で介護に悩んでおられる家族へのアドバイス等も行い、新規入居申し込み者数も増えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で4回ほど中止した。その際は文書にて連絡をおこない又、アンケートも実施してご意見等をいただき運営に活かしている。	コロナの状況に合わせて開催したり書類で状況を報告したりしているが、できるだけ定期的に開催できるように努めている。会議には家族・自治会長・民生委員・市職員等が出席し、事業所の運営状況・ヒヤリハット・活動報告等が行われ、地域の話題も豊富で活発に意見交換がなされてサービスの向上に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時、感染予防について市担当者との連携をとりながら、コロナ禍の中で安心安全なサービスの実践に努めている。	市職員とは運営推進会議・介護保険関係書類提出・事業連絡会等を通して、日頃から助言・対応をもらっているが、現在は電話での連携が中心となっている。グループホーム協議会や他の研修会にも積極的に参加して意見や情報交換を行うなど、協働関係を築けるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を2回行い、職員は正しく理解し、入居者が自分の意志で自由に行動できるように権利擁護を意識したケアを行っている。居室内での転倒事故防止のために人感センサーを導入しているが毎月のモニタリング検討会を行っている。	内部研修や法人合同研修・外部研修等に参加して身体拘束に対する職員の認識を深め、「身体拘束等適正化のための指針」に基づいて自由な暮らしを支援できるように努めている。事業所内には「不適切なケア」を掲示し、言葉による拘束も含めて注意喚起し、年1回法人が実施する「セルフチェックリスト」による振り返りを行って、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し虐待について学び自己の振り返りができている。前回の外部評価と比較すると言葉による虐待等に対しては職員間で常に意識して言葉かけを丁寧におこなうように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通して学ぶ機会を得ている。また権利擁護について理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には懇切丁寧な説明を心がけ十分ご理解をいただいたうえで契約を締結している。また機会あるたびにいつでもご質問や相談などを受け付けていることを文書で連絡している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話対応時、運営推進会議参加時等に要望やご意見等をいただき、速やかに改善したり、施設運営に取り入れている。	利用者の意見・要望は日常のケアの中で把握に努め、家族の意見・要望は面会・電話等で把握している。家族の面会は多く、現在ガラス越しとなっているが、毎月ホームから送付される生活状況報告書と写真により利用者の様子がわかり、家族からの要望や情報等を把握できる手段となっている。管理者は、家族という土台があつての協力体制が重要であると考え、何でも言える関係を築けるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個人面談などで職員の意見を聞き取り、施設運営に活用できている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションを密に図り、意見・要望を話しやすい職場環境づくりに努めている。年2回の個人面談を実施し、職員は6か月で達成可能な目標を設定してシートを作成し、管理者は途中でその達成度を確認している。希望休や研修参加にも可能な限り対応し、働く意欲の向上に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価や目標達成シートを元にした個人面談を実施している。個々の評価に基づき給与などへ反映し各自が向上心を持ちながら勤務についている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を開催し認知症介護のスキルアップが実現できている。さらに資格取得に向けてサポート体制も確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設研修やGH協議会、介護サービス事業所連絡会、介護支援専門員協議会研修会等に参加し、横のつながりをつくることで本施設のサービスの質の向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネやご家族からの情報を丁寧に聞き取り、どのように信頼関係を構築していくか繰り返しカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご家族の不安な気持ちに耳を傾け、ご本人やご家族の要望を実現できるように努めている。電話や写真も活用し、ご家族が安心できる対応を続けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初めての入居生活という緊張感を受け止めながら、その方の最も配慮する必要な内容を職員全員で理解し、ケアの統一を図ってる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方のこれまでの人生を共に振り返りながら、グループホームでどのような暮らしを望まれるのか信頼関係を構築している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いや要望を常に聞き取り、把握し一緒に本人を支えていけるように関係作りを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会中止となっていたが電話やガラス越しの面会を続けている。また手紙なども活用しながら関係継続を図っている。	利用者のこれまでの人間関係が継続されるように、入居時に関係機関や家族等からの馴染みに関する情報をもらい、職員間で共有している。電話・手紙の取り次ぎや代筆・墓参り・可能であれば外泊等の支援を行い、外出もできるだけ実施して、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を把握し、交流しやすい環境を設定している。また関係作りのきっかけを提供し、関係性ができることでその方の居場所ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでもご相談など受け入れていることお伝えしている。また他サービス等の紹介等も随時行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃からその方の要望等をくみ取るように努力している。内容がスムーズに解決できないような困難ケースについては職員全員で話し合いを続けながら本人にご納得いただけるような支援を行っている。	利用者の思いや意向は、心身の状態が安定している時に、困っていること・食べたいもの・ホームでの暮らしはどうか、等について尋ねて把握している。家族からは入居時情報として生活歴・職歴・性格・趣味等の情報をもらい、職員間で共有して介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報を職員全員が共有できるようケアノートを活用している。新しい情報なども把握し固定概念にとらわれないように多角的にその方を理解できるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態などを記録し、全職員で把握している。ケアカルテ（電子）により各項目の集計平均値等を出しデーターをケアに活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを行いながら、その方の課題を確認している。本人の意向を第一に考えて介護計画を作成している。	利用者の言葉や思いを大事にして優先順位を考え、入居開始後1ヶ月間は短期目標期間を1ヶ月とし、3ヶ月毎にモニタリングを実施して目標を見直し、本人が望む暮らしの実現に向けた介護計画を作成している。入院等で利用者の状態変化があった場合には、随時計画を見直して修正し、利用者の現状に合わせた計画を作成するように努めている。日々の介護記録はタブレットで管理され、職員間での共有し役立てている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年6月より電子カルテ「ケアカルテ」に日常の記録を入力し全職員が閲覧することで多角的にその方の理解ができている。認知症ケアの質の向上にも努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々個々のニーズに沿った支援が提供できるように努力している。受診支援、買い物支援、外部との交流等できる限りのサービス提供を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節行事、墓参り、買い物、友人の面会、親戚への手紙投函、ボランティアの受け入れ、等社会資源を活用した暮らしを提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や訪問看護、かかりつけの眼科受診や歯科受診等当施設との関係を築きながら必要な医療が受けられるように支援している。	利用者の全員が母体病院をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療や週1回の看護師による健康チェックの他に、歯科の訪問診療や家族同伴での専門科の受診など、職員間で情報共有しながら適切な受診ができるように支援している。夜間は看護師を通して医師から指示をもらい、オンコール体制が構築されており、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と週1回の訪問看護サービスを活用している。訪問看護へ24時間いつでも電話対応で情報交換や相談等をおこない、入居者の心身の健康維持を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	密に連絡を取りながら病状の経過報告を確認できている。またできるだけ早期に退院できるように関係作りを常日頃から心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時契約時に重度化や終末期についての説明を行っているが終末期について延命措置をするのか本人、家族へ意思確認（同意書）を行う予定である。入居者の現時点での意思確認を行う。	入居時に「医療連携体制及び重度化対応の指針について」の中で看取りに関する考え方を説明している。これまで看取りの事例はなく、家族に対する意思確認は口頭で行っており、医療行為が必要になった場合には入院する方向で支援がなされている。今後は法人としての方針を検討し、明文化していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル作成、救急救命法実技研修等初期対応の訓練には毎回全職員が参加できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業継続計画BCPを作成し取り組んでいる。消防署との避難訓練も実施し参加できている。他施設クオーレとの協力体制もできているが、近隣住民との協力体制を築いていく必要がある。	年2回の夜間想定を含む火災対応の避難訓練を実施し、年1回は消防署が立ち会い、自主訓練も複数回実施している。「自然災害発生時における業務継続計画」を作成し、自動通報装置の設置や法人内一斉メール対応もあり、現在は参加協力は得られないが、訓練の際には自治会長に連絡している。備蓄は水・食料品等をホームで3日分保管し、懐中電灯やラジオ等も準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重したケアを心がけている。接遇研修、権利擁護の研修などにも参加しケアに生かしている。	年度初めにホームでは接遇マナー研修を、法人では権利擁護の研修を行い、利用者を人生の先輩として尊敬して敬語で会話し、不適切な言葉を使わないように気を付けてケアに臨んでいる。特にトイレ誘導や入浴介助時の羞恥心への配慮や声掛けの方法について検討し、利用者の気持ちに沿った支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り自己決定できるように支援している。表出が難しい方でも表情等から思いを読み取ることができるように希望に添えるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた暮らしを目指しているが業務優先になることも多い。できる限りその方の意思確認を行うことを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節感やサイズ等を確認しながらおしゃれの支援を行っている。鏡の前で整髪をしたり居室で化粧水を付けたりできるように声かけや時間の確保を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節料理やリクエストにこたえた献立を提供している。また一緒に台所に立って調理や盛り付けなどもその方の役割作りとして楽しみながら行っている。	3食全てをホームで手作りし、利用者は発揮できる能力に応じて買い物・下ごしらえ・調理等を行い、「お料理体験日」では調理から全てを利用者だけで行っている。食事前には口腔体操を、食後には口腔ケアを行っている。行事食やおやつ作りも行い、食べることが利用者の楽しみに繋がるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事形態に合わせて食事提供ができている。量や持ちやすい食器、盛り付けの工夫など個々に合わせた支援ができている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援を行っている。声掛け、見守り、介助などその方に合った支援ができている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを考えて排泄用品等を工夫している。また排泄リズム等も確認したケアをおこなっている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用して利用者毎に排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もあるが、個々の状態に合わせた排泄用品を使用しながら自尊心やプライバシーにも配慮して、排泄の自立を目指した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品や飲み物等の工夫でスムーズな排便ができるように取り組んでいる。毎日の運動や排便リズムを把握しながら便秘予防を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調や行事等考慮して入浴提供している。以前は午前入浴であわただしい入浴誘導であったが今年度より午後入浴になりあわただしさも軽減されている。	週3回、午後からの入浴を基本としているが、利用者の希望や身体状況等によっては対応可能である。入浴剤は使用せず、ゆず湯等にも対応し、シャンプー・石鹸等は共用であるが、希望の物を使用することもできる。入浴後の水分補給はコーヒー・紅茶・カルピス等、好みの物を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態にあった休息の取り方ができている。その人の生活習慣に合わせた場所や時間で休息や安眠が取れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルや新処方内服などの情報をいつでも閲覧確認ができている。また診療報告書には確認印を押印して全職員が内服変更などの情報を確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな活動に自由に参加できるように環境設定している。調理作業、裁縫、箱作り、洗濯物たたみ、読書、歌番組視聴等気分転換ができている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で希望に沿った外出は実現できなかったが、コスモスや彼岸花、ひまわり等の見学ドライブ、ミカン狩りや彼岸墓参り、ニシムタへの買い物等を楽しんでいただいている。	例年は様々な外出支援に取り組んでいるが、現在はコロナ禍のため自粛していることが多く、初詣ドライブや菜の花・あじさい・コスモス・彼岸花等のドライブ花見は実施している。ホームは建物の2階にあるため戸外への散歩等は難しく、室内でレクリエーション・映画鑑賞・カラオケ・パズル・計算・絵合わせ等を行い、ホーム内で工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の所持金は金庫で保管している。本人希望の買い物などは職員が代行して購入している。随時買い物体験として一緒に買い物に出かけて好みの服や食べ物等を購入できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望に沿って電話を自由にかけてたり、手紙を書いたりできるように支援している。定期的に手紙が届き、返信もされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を体験できるように花々や木の実、とれたての野菜の差し入れ等をテーブルや居室へ飾っている。居室は毎日清掃し、照明や室温は適切な状態である。	建物の2階がホームになっており、エレベーターを降りると季節の行事写真が壁一面に貼られている。利用者は明るいフロアのソファに座ってテレビを見たり談笑して過ごしている。空気清浄機が設置され、定時に換気も行われ、適切な空調管理がなされている。キッチンからは調理の音や匂いがして、利用者は家庭的な雰囲気の中でゆったりとくつろげる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事はテーブルでとり、リラックスしたい時はソファで自由にくつろいでいただいている。9名の入居者が十分に気持ちよく過ごせる共有空間である。大型テレビやDVDでお好きな歌手のコンサート映像を視聴したりあたたかなブランケットで気持ちよく過ごしたりと思い思いのくつろぎ方ができている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や植木鉢、使い慣れたブラシや鏡、置時計等を配置して心地よい暮らしが継続できるように工夫している。	居室にはエアコン・電動ベッド・チェストが備えられ、腰高窓で室内は明るく、壁に設置されたホワイトボードには利用者の作品や写真が飾られている。居室の入口には名前が貼ってあり、目印に花を付けている部屋もある。利用者は馴染みの物を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境設定ができており、分かりやすい表示、手すり、物品の適切な場所への配置などでできるだけ自立した生活動作ができるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない